

NGOトーク  
理事が聞く

# 活動理念は経費5%、 援助は直接!

(特活)キャンヘルプタイランド 理事 松本 康裕さん & (特活)名古屋NGOセンター 理事 八木 巖

## 置いていかれている 子どもたちに支援を

**八木** タイの子どもたちの教育支援の活動をされているということですが、どういう子どもたちでしょう。

**松本** 両親がいない、片親など経済的な理由から、意欲があっても進学できない子どもたちを対象としています。主に幼稚園、小学校、中学校の教育環境を改善することを主としています。高校、大学まではなかなか手がまわりません。

地域的には、置いていかれている地域、後回しにされている地域、タイ族以外のアイデンティティ上、後回しにされている民族の人たちなど国民として認められていない人たちが対象になります。タイで被差別地域、被差別民族の人たちです。

**八木** 当初は筑波大学の先生の呼びかけから始まったそうですが、愛知県に拠点が置かれているのは?

**松本** 1990年に筑波大学の3人の教授がタイの子どもたちの教育環境を改善しようと声をかけたことから始まりました。その1人の方が名古屋の南山大学に赴任され、南山大学の学内ボランティア組織として数年活動し、その後卒業生たちが中心となって学外に構え、広く一般の会員の支援を募集しようと一般組織に発展しました。ご支援いただいている方は全国10県以上になります。寄付などの支援は、8~9割の方が継続していただいています。

## 経費を節約して、援助は 直接こどもに手渡す

**八木** 固定の支援者がいるということには心強いですね。

**松本** そうですね、でも一方では発展性がないという一面もあります。どう間口を広げていくのか、模索もしています。企業回りをしたり、労働組合やライオンズクラブの社会貢献の支援先として提携したりしています。しかし、会員の方のご支援がベースです。

4年前の震災以来、どちらの団体もそうかと思いますが若干先細りの状態です。しかし、支援を必要としている人は依然としているわけですから、何とかしなければとこの10月に法人化しました。任意団体ではなくNPO法人であるということはとても強みです。ただ、組織の存続ということにはこだわってなくて、ちゃんと引き継いでくれるところがあれば、託してもいいと思っています。しかし、キャンヘルプの活動理念を引き継いでくれないといけない。それが経費は5%、援助は直接で渡す!ということです。

**八木** “経費5%、援助は直接!”。これはなかなか難しい…。事務所を構える経費や人件費を考えるととても大変だと思いますが…。

**松本** 寄付してい

ただいた金額の95%は手渡します。現実としては経費5%で収まらないので、運営費を支援する方を別途に協力をお願いしています。事務局は専従、常勤はおらず、すべて無給、ボランティアでやっています。交通費、食費などは持ち出しですね。

## スタディツアーでなくて ワークキャンプ

**松本** 建設プログラムでは校舎建設のワークキャンプをします。単純作業の誰でも素人でもできるコンクリートをこねる、持ち運び、穴掘りなどの作業です。毎年行っていますがとても好評で、多い年は説明会に2,000人の方が参加したことがあります。その年は200人が参加して、4つのグループに分かれて一挙に4つの学校の建設にかかりました。

募集の時には、観光はない、ホテル泊まりはない、ということは参加者に伝えていきます。宿泊は学校で雑魚寝で、生徒のご家族にお願いして食事を作ってもらい



ワークキャンプでの建設作業



タイの貧困地域の子どもたちへ教育支援を行っているキャンヘルプタイランド。この10月に特定非営利活動法人となりました。団体の活動理念には徹底したこだわりがあるようです。理事の松本康裕さんに名古屋NGOセンター理事でペシャワール会や不戦ネットにもかかわっている八木巖がお話を伺いました。

まつもと やすひろ  
松本 康裕さん



やぎ いわお  
八木 巖

ます。タイへ行っても学校の建設作業だけで、結局一步も外に出ないという人もいました。もちろん、長い間ですから子どもたちや先生、父兄との時間外の交流はありますが、労働力を提供するという事に徹底しています。いわゆるスタディツアーではなくてワークキャンプです。今年にはサッカーオ県の図書館を作りました。

**八木** そして援助は直接手渡すことにこだわっておられるんですね。

**松本** はい、人の手を経れば経るほど目減りはします。10万円送っても現地に届くのが5万円というNGOもあります。直接、子どもたちに現金を渡すことにこだわっています。各県の教育委員会に、生徒の選考、書類のやりとり、事務手続き、会場の提供など協力していただいています。教育委員会の方にもボランティアをお願いしています。私たちの主旨に賛同いただいて、現地の方々にも協力してもらっているということです。20年ほど前に比べると様ざまなことが随分透明化されてきて、現在では送金でも問題はなくなりました。

ありがたいことに支援した子どもたちが成長して役人になっていたりして、それなりの部署で活躍していると嬉しいです。でも子どもたちの多くは、仕事がないのでバンコク近郊に出ざるを得ないというところがあります。

## 現地の主体性をひきだす

**八木** 現地とのやりとりには問題はありませんか？

**松本** カウンターパートに恵まれていて仲立ちしてくれているので、あまり感じたことはないです。たとえば、建設する場合、100万パーツ必要という時にうちは「50万パーツ出します。あと50万パーツはそちらで何とかして下さい」と提案します(1パーツ=約3円)。残りの50万パーツをなんとか現地で調達するという熱意がなければ支援はしません。やるのはあなたたちだと。主体性がないところには支援しません。そして建てた建物は教育委員会に寄付しています。

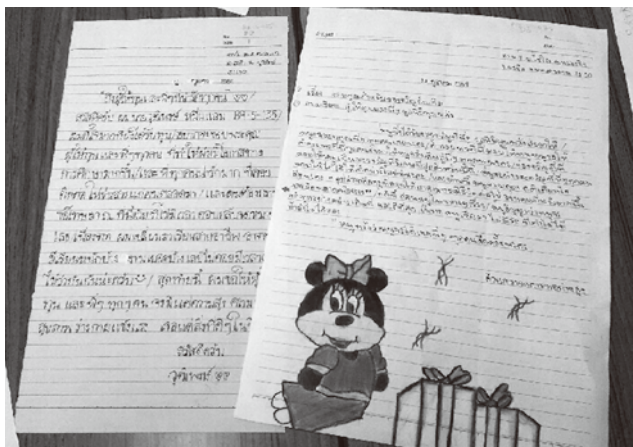
**八木** 作った建物の所有者を誰にするかはよくもめます。教育委員会に寄付するのはいい方法だと思います。事務局の運営も大変でしょうね。

**松本** 事務局の重要な仕事は運営資金を集めることだと思っています。年間の収入は約300万円です。経費5%なのでニュースレターなどでなくなります。様ざまなプログラム(※)への支援がありますが、奨学金プログラムが70%ぐらいです。今年には会員の方のご遺志で20万円ほど寄付いただいたので図書を購入しました。本はタイで安く購入しましたが、支援物資を郵送するにも、税関で免税書類を見せて商売ではない、寄付なのだとかタイ航空と輸送費を交渉したこともあります。徹底して経費削減に努めています。

国内の活動としては、名古屋NGOセンターのイベントに出展したり、ニュースレターにきちんと具体的な報告を支援者の方にしながら、さらに理解いただける方を募っていきたいと思っています。

**八木** どうもありがとうございました。

(担当:水谷)



子どもたちからの手紙

### 団体概要

#### (特活)キャンヘルプタイランド

名古屋市中村区名駅南2-11-43 日商ビル2階NPOステーション内  
TEL&FAX:052-566-5131 Email:office@canhelp.jp  
HP: <http://www.canhelp.npo-jp.net/>

#### ※プログラム

奨学金プログラム(1口10,000円)、建設プログラム(1口5,000円)、  
図書支援プログラム(1口5,000円)、ランチプログラム(1口5,000円)、  
山岳少数民族プログラム(1口10,000円)、  
運営経費の寄付(1口3,000円)、会費(1年3,000円)